

## 後期基本計画の目標値 達成状況(最終報告)

### 1. 町の基盤整備

#### (2) 豊かな自然を身近に感じ安心した生活を支える都市基盤の整備

項 目	出発点 (後期基本計画策定時点)	目標値	H18報告	H20報告	H23報告	目標値の捉え方
巡回バスの利用者数 (年間利用者数)	9,279人 (H17.3末)	11,000人	10,938人 (H18.3末)	11,716人 (H20.3末)	9,527人 (H23.3末)	H16の利用者数は、9,279人(243日)となっている。 利用者の立場に立った運行を心がけて、利用者数の増加を図る。
道路改良率	49.9% (H17.3末)	50.5%	50.0% (H19.3末) 予定	51.2% (H20.3末)	51.9 % (H23.3末)	道路改良率は、行政面積が広く、道路の総延長が長いことを反映して、50%を下回っている。5年間で、2,270mの整備を図り、50%の改良率をめざす。

### 2. 産業の振興

#### (1) みんなが営農し多様で活力ある農林業の振興

項 目	出発点 (後期基本計画策定時点)	目標値	H18報告	H20報告	H23報告	目標値の捉え方
集落営農組織数	5組合 (H18.3末)	9組合	6組合 (H19.3末) 予定	6組合 (H20.3末)	6 組合 (H23.3末)	農作業の集団化・協業化を図るため、集落単位に経営規模の拡大を志向する農業経営体を軸に、兼業農家や高齢者を構成員として、集落営農組織を育成する。
農業法人数 (事業として農業を営む法人の数)	1法人 (H18.3末)	3法人	2法人 (H19.3末) 予定	3法人 (H20.3末)	3 法人 (H23.3末)	健全な組織経営を育成する。
認定農業者数 (自らの創意工夫に基づき農業経営の改善を計画的に進めようとする農業者の数)	11名 (H18.3末)	13名	10名 (H18.7末)	14名 (H20.3末)	17 名 (H23.3末)	法人化された組織経営体は、認定農業者に誘導するなど、町の農業を担うプロフェッショナルを多く育成する。
ライスセンター数	2箇所 (H18.3末)	4箇所	3箇所 (H19.3末) 予定	3箇所 (H20.3末)	3 箇所 (H22.3末)	次世代に引き継げる魅力ある農業・農村を構築するため、核となる施設の整備促進を図る。

### 3. 生活環境の整備

#### (1) 地球にやさしい快適な居住環境の整備

項 目	出発点 (後期基本計画策定時点)	目標値	H18報告	H20報告	H23報告	目標値の捉え方
合併浄化槽未設置件数 (合併浄化槽設置が必要な戸数)	550戸 (H18.3末)	200戸	520戸 (H18.7末)	400戸 (H20.3末)	382戸 (H23.3末)	下水道・農業集落排水事業区域を除く区域について、合併 浄化槽の促進を図り、対象区域全戸の設置をめざす。 ・年間70基×5年間=350基
農業集落排水接続率 (農業集落排水事業加入戸数のうち、接続済な戸数の割合)	73.0% (H17.9末)	80.0%	75.3% (H18.7末)	77.0% (H20.3末)	78.8 % (H23.3末)	推進委員会の開催、戸別訪問などの継続的な啓発活動を通じて、接続戸数を増加させる。
河川の水質 (BODが5mg/ を超えない河川の割合)	100% (H17.3末)	100%	100% (H18.3末)	100% (H20.3末)	100 % (H23.3末)	BODが5mg/ 以下は、川魚が生息するのに適している水質の目安である。 現在、この目安を超える河川はないのでこの水準を確保する。
白ガス管(本支管・供給管)の入替達成率 (入替が必要な本支管・供給管のうち入替済の本支管・供給管の割合)	64% (H18.3末)	78.0%	67% (H19.3末) 予定	73% (H20.3末)	80 % (H23.3末)	(本支管) 計画的に老朽化した本支管の白ガス管をPE(ポリエチレン)管に入替え、ガスの安定供給、保安確保を図る。 ・毎年度、3km～6kmの改善
	62% (H18.3末)	71.0%	64% (H19.3末) 予定	72% (H20.3末)	86 % (H23.3末)	(供給管) 本支管の入替に伴い、供給管も併せて改善する。 ・毎年度、50本の改善
白ガス管(宅内)の入替達成率 (入替えが必要な戸数のうち入替済の戸数の割合)	35% (H18.3末)	74.0%	41% (H19.3末) 予定	65% (H20.3末)	74 % (H23.3末)	本支管の入替えに合わせて、需要家の宅内の白ガス管の入替えを推進する。 ・毎年度 200戸の改善

#### (2) 安心の基盤となる防災・防犯体制の整備

項 目	出発点 (後期基本計画策定時点)	目標値	H18報告	H20報告	H23報告	目標値の捉え方
交通事故発生件数 (人口1千人当たりの年間発生件数)	4.5件 (H16.12末)	3.5件	3.0件 (H18.7末)	4.2件 (H19.12末)	3.0件 (H22.12末)	「0件」にすることが、望ましいが、本町の発生件数は、県の平均発生件数、6.0件(H15)を既に1.5ポイント下回っている。 更に下げることが難しいことになるが、交通安全の啓発活動等を通じて、20%の発生の抑制に努める。

交通事故死傷者数 (人口1千人当たりの年間死傷者数)	5.1人 (H16.12末)	4.5人	4.2人 (H18.7末)	6.2人 (H19.12末)	3.3人 (H22.12末)	「0件」にすることが、望ましいが、本町の死傷者数は、県平均8人(H15)を既に3ポイント下回っている。 更に下げることは難しいことになるが、交通安全の啓発活動等を通じて、10%の発生の抑制に努める。
犯罪の発生件数 (人口1千人当たりの年間発生件数)	11件 (H16.12末)	10件	4.1件 (H18.6末)	9.5件 (H19.12末)	8.1件 (H22.12末)	「0件」にすることが、望ましいが、「ここ3年間の平均は、16件となっている。 平成16年度は特化して少なかったため、この水準を、防犯の啓発活動やボランティアなどと協力しながら、維持する。
罹災世帯数 (出火件数の中、罹災世帯数)	1件 (H17.3末)	0件	0件 (H18.7末)	3件 (H20.3末)	1件 (H23.3末)	年間1から2件発生しているため、発生「0件」をめざす。

#### 4. 保健・医療の充実の向上

##### (1) 町民が健康で長生きできる保健・医療の充実

項 目	出発点 (後期基本計画策定時点)	目標値	H18報告	H20報告	H23報告	目標値の捉え方
要支援及び要介護1の認定者数	207人 (H18.3末)	222人	213人 (H18.7末)	168人 (H20.3末)	167人 (H23.3末)	介護予防を重視した新しい給付や地域支援事業の実施により、介護認定者の介護状態の進行を抑制し、生活機能の維持・向上を図り、高齢者の自立した生活を支援する。 平成22年度において、出現率から推定される要支援及び要介護1の認定者数239人を222人に抑制する。
介護の必要がない高齢者の割合 (介護認定者以外の高齢者の割合)	85.2% (H18.3末)	84.0%	84.6% (H18.7末)	84.5% (H20.3末)	82.9% (H23.3末)	介護予防を重視した給付や事業を実施することで、年々、低下している状態を食い止め、84%の維持を目標とする。
介護予防事業への参加人数 (いきいき教室、サロン、ヘルスアップ教室などの延べ参加人数)	560人 (H18.3末)	616人	128人 (H18.7末) あと27回予定で 434人見込む	801人 (H20.3末)	689人 (H21.3末)	高齢化率の上昇に伴い町の要介護認定率は増加傾向にあるため、新たな介護予防事業を展開し、生活機能の向上を図り、対象者が自宅において、健康で生き生きとした生活が送れることをめざす。 町の高齢化率が上昇しており、管内においても高いため、自立した生活が送れるよう介護予防に取り組み、平成19年度に約3%、20年度に5%、平成22年度には、10%の増加を目標とする。
健康診査の受診率 (希望者の内、受診した者の割合)	75.7% (H18.3末)	78.0%	* 67.2% (H18.3末)確定			生活習慣病予防を目標として40歳から64歳までの健康診査の受診率の向上、健康教育、健康相談等の充実、生活習慣の改善をめざす。 健康診査の受診率の維持・更なる向上をめざし約3%増を目標とする。

\* H18年度から対象者の抽出方法を変更した。通院中の方を対象外とした。

## 5. 教育・体育の充実と文化の振興

### (1) 社会情勢に変化に対応し町の特色を活かした学校教育

項 目	出発点 (後期基本計画策定時点)	目標値	H18報告	H20報告	H23報告	目標値の捉え方
給食における長南産の自給率	10% (H17.3末)	15.0%	10% (H18.3末)	10% (H20.3末)	8 % (H23.3末)	長南産の食材を導入し、安全、安心、新鮮な給食を提供するとともに、児童・生徒の食への関心を高める。
給食の一食当たりの残渣量	100g (H17.3末)	90g	100g (H18.3末)	85g (H20.3末)	79 g (H23.3末)	常に栄養のバランスの摂れたおいしい給食の提供に努め、食べ残し量を減らす。

## 6. 行政計画と町民との対話と協調

### (1) 効率的な町の行財政の推進

項 目	出発点 (後期基本計画策定時点)	目標値	H18報告	H20報告	H23報告	目標値の捉え方
遊休土地(町有地)の割合 (現在の普通財産の面積に対する利活用の割合)	36.0% (H17.3末)	45.0%	36.4% (H18.3末)	38.2% (H20.3末)	38.9 % (H23.3末)	町有地(普通財産分344,785㎡)の有効利用を図り、遊休土地の削減を図る。
低公害車の保有台数 (公用車)	1台 (H18.3末)	3台	1台 (H18.7末)	1台 (H20.3末)	10台 (H23.3末)	公用車の購入の際は、環境に配慮する。

### (2) 町民と行政による対話と協調のまちづくり

項 目	出発点 (後期基本計画策定時点)	目標値	H18報告	H20報告	H23報告	目標値の捉え方
うごく町政教室の満足度 (参加して、よかった・まあまあよかったと答えた人の割合)	86.9% (H17.8)	90.0%	隔年実施のため未実施	100.0% (H19.8)	100.0% (H19.8)	開かれた行政をめざし、この教室を通して、町の事業等の理解を深める。満足度は、86.9%と高いので、この水準を下げることなく、少しでも高めるよう内容を工夫する。
ふれあい町民ツアーの満足度 (参加して、大変よかった・まあまあよかったと答えた人の割合)	62.0% (H16.11)	70.0%	10/22・23実施	59.0% (H18.10)	55% (H22.11)	アンケート結果参考に、町民同士の交流やふれあいの場に有効的なツアーを企画する。 普通と答えた人の割合27%の約1/3が、大変よかった・まあまあよかったと答えてもらえるように務める。

### (3) 男女共同参画社会の形成

項 目	出発点 (後期基本計画策定時点)	目標値	H18報告	H20報告	H23報告	目標値の捉え方
女性の登用拡大 (女性委員が20%以上で構成される附属機関の率)	48.6% (H16.4.1)	70.0%	50.0% (H18.4.1)	45.5% (H20.4.1)	38.9 % (H23.4.1)	登用委員の中には、他の機関等へ当て職として割り当てられる場合も多いため、各附属機関の委員選定基準を考慮した数値とする。